

平成25年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 よしもと ていいち 吉本 貞一 1887～1945年 》
—徳島県出身の陸軍大将—



軍司令官訓示等（登録番号：陸軍省-陸支密大日記-S14-15-104）

吉本貞一大将は、明治41年5月、陸軍士官学校（20期）を卒業後、第2師団長、関東軍参謀長、第1軍司令官などの要職を歴任しました。「軍司令官訓示等送付ノ件」（昭和14年2月15日付）と題されたこの史料には、中支那派遣軍参謀長吉本少将が、各部隊長に行った講演の要旨が含まれています。この中で、「軍紀風紀ノ弛緩ハ軍隊ノ成立上許スヘカラサルノミナラス内外ニ対シ軍ノ威信ヲ傷ツケ其ノ施策行動ヲ妨害スル等其ノ弊甚大ナル」ことから、「軍紀風紀ノ振作ニ努力セラレ度」としています。そして教育指導上の参考として添付された「昭和13年中軍人軍属軍紀風紀考察ノ資料」には、「刑罰ノ統計的觀察及傾向竝原因」とその「対策」が記されています（他に、「支那事變の経験に基づく無形戦力軍紀風紀関係資料（案）」登録番号：支那-支那事變全般-445）。



時局関係事項の秘匿称呼（登録番号：陸軍省-陸満密大日記-S16-13-15）

昭和16年7月2日、政府及び大本営は、6月22日の独ソ開戦に伴い、密かに「対ソ武力的準備」を整え、情勢が有利に進展すれば「武力ヲ行使シテ北方問題ヲ解決」すること等を定めた「情勢ノ推移ニ伴フ帝国国策要綱」を決定しました。これにより陸軍は、関東軍と朝鮮軍の戦時定員を充足し、内地の2個師団と所要の軍直轄部隊を動員、これを関東軍に増派して対ソ戦備を強化します。将兵約50万人の動員は7月7日と16日に下令され、在満鮮兵力は85万人に増強されました。この史料は、関東軍参謀長吉本中将が、独ソ開戦に伴う「時局関係事項」、即ち「対ソ武力的準備」を、爾後「関東軍特種演習（関特演）」と呼称することを通牒した「時局関係事項ノ秘匿称呼（ママ）ニ関スル件」（6月26日付）です（他に、「情勢の推移に伴う帝国国策要綱」登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-1066-2）。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>